



第36期 第2四半期ご報告

平成26年4月1日～平成26年9月30日



ひと目でわかる! OBC

OBCは、テレビCMでおなじみの「**勘定奉行**」をはじめ、
企業に必要な基幹業務システム「**奉行シリーズ**」の
開発、販売及び保守・導入指導等を行っている**パッケージソフトウェアメーカー**です。

「奉行シリーズ」の製品・サービスの特長

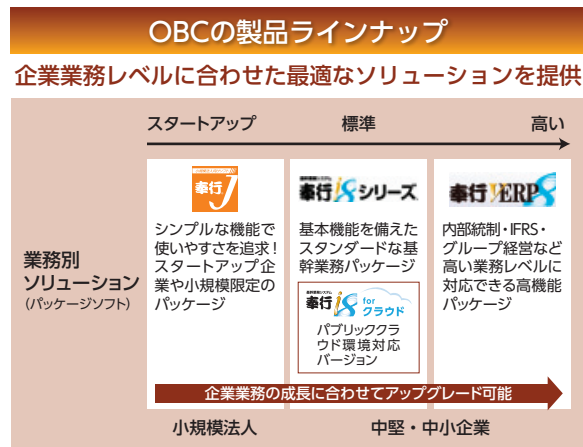
1 中堅・中規模・小規模企業及び
企業業務にフォーカス

2 お客様の企業業務に
最適な製品ラインナップ

3 経験豊富なパートナー様と
共に最高の支援

4 顧客満足度を追求する
徹底したサポート

5 初期投資を無駄にしない
アップグレード制度



安心と実績の製品・サービス、信頼できる確かな技術で
お客様のニーズにお応えしてまいります。

導入シェアNo.1の奉行シリーズ 導入実績 **56万社** 突破
※平成26年3月現在

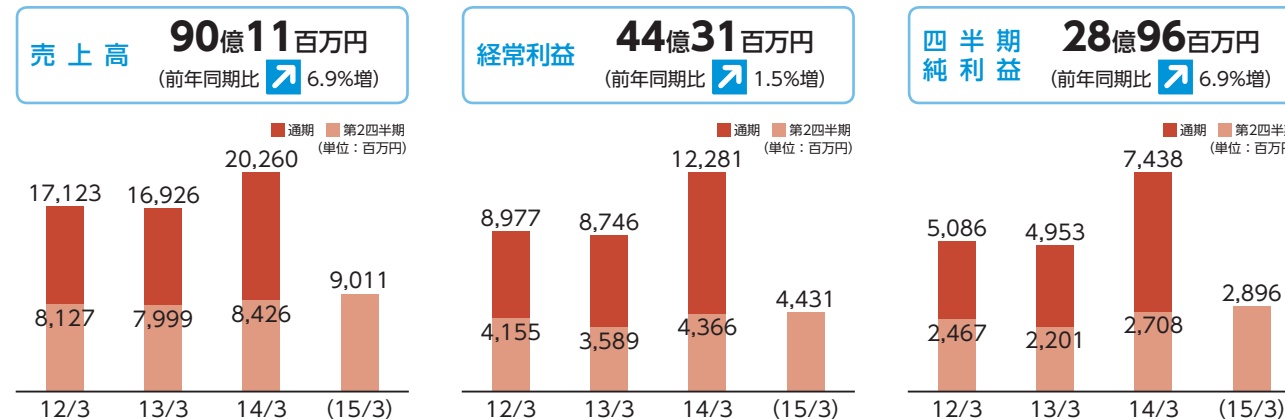
株主の皆様へ



代表取締役社長 和田 成史

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当第2四半期累計期間におけるわが国の経済状況は、政府の景気対策による企業業績の回復や雇用情勢の改善などの明るい兆しも見られた反面、消費税法改正による特需の反動、天候不順等の影響により個人消費の回復が遅れ、先行き不透明な状況が続いております。
このような環境のもと、当社は「使いやすさ」にフォーカスした製品開発、及び「顧客第一主義」を踏まえた的確なサポート体制を推進いたしました。具体的な活動としては、販売パートナー企業向けの「奉行カンファレンス」を開催いたしました。販売パートナー企業との足並みをそろえて関係を強固にすることで、顧客のニーズを的確に把握したサービス提案を実現し、営業活動を行ってまいりました。
これからも、常にお客様とともにイノベーションへ挑戦してまいりますので、株主の皆様には、今後とも変わらぬご厚情ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

当第2四半期の業績

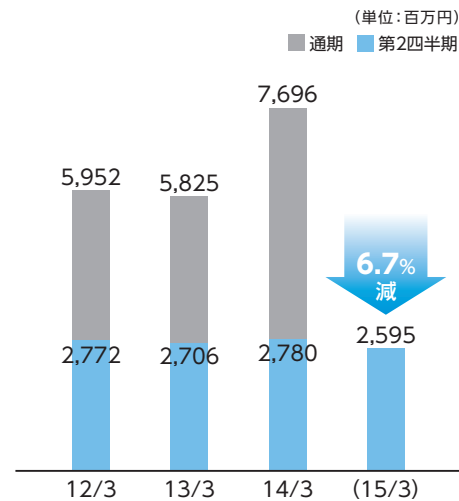


当第2四半期のポイント

- ◎「奉行カンファレンス」を販売パートナー企業向けに開催。より連携を深めながら、顧客のニーズを的確に把握したサービス提案と営業活動を行いました。
- ◎消費税法改正による特需の反動でプロダクト売上は減益となりましたが、サービス売上の増加により売上高は前年同期比6.9%増となりました。
- ◎経常利益及び四半期純利益が増益となった主な要因は、総じて売上高の増収が寄与したことによるものです。

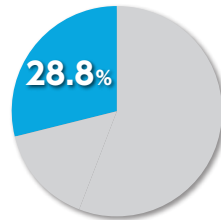
事業別の状況

ソリューションテクノロジー



◆当第2四半期の状況

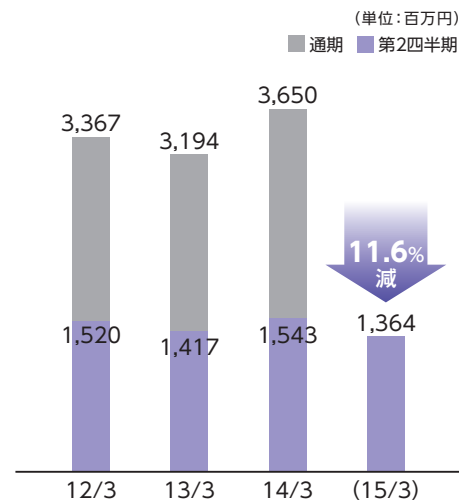
ソリューションテクノロジー部門の売上高は、前年同期比6.7%減の25億95百万円となりました。前第2四半期から続いていたバージョンアップ需要が一段落したことで、その反動により奉行シリーズの売上が減少しました。



❖事業内容

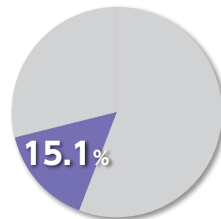
中堅・中小企業を中心に、ITを活用したソリューションとして、「奉行シリーズ」をはじめとするパッケージソフトを提供。企業規模やニーズに合わせて豊富なラインナップを用意しております。また、上位製品へのバージョンアップも当部門の売上高に含まれます。当社のパッケージソフトは、販売・パートナーとの強固な連携による供給体制が確立されており、それらが強い競争力と安定成長力の基盤となっています。

関連製品



◆当第2四半期の状況

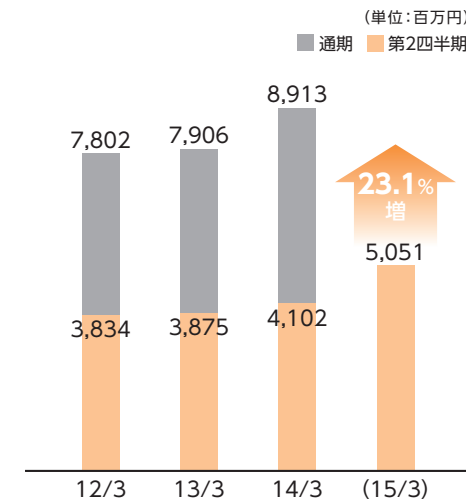
関連製品部門の売上高は、前年同期比11.6%減の13億64百万円となりました。サプライ製品売上が84百万円減、またバージョンアップ需要の減少に伴い奉行連動ソリューション売上が102百万円減少しました。



❖事業内容

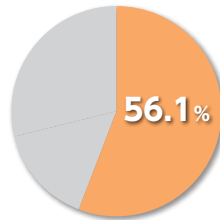
「奉行シリーズ」専用の仕様となっている伝票・帳票などの「奉行サプライ」を提供。このサプライ製品は、奉行シリーズをご購入いただいたお客様との継続的な取引につながる安定した収益源です。また奉行シリーズと連動して使用される他社開発のハードウェア、ソフトウェアの供給に伴う売上や、EB関連製品などの売上も、当部門の売上高に含まれています。

サービス



◆当第2四半期の状況

サービス部門の売上高は、前年同期比23.1%増の50億51百万円となりました。変化するIT環境への対応に伴う奉行保守契約料が917百万円増加し、全体の売上増に大きく寄与しています。



❖事業内容

システム導入後のユーザーサポートを目的とした「スクール」や「訪問指導」、「年間保守契約」や「オンライン・電話回線等サポートサービス」の提供など、お客様満足度の向上のための業務支援サービス事業を展開。お客様目線に立ったきめ細かなトータルサポート体制を確立しています。こうしたサービスは、当社製品の市場における評価・優位性につながるだけでなく、売上にも大きく寄与しています。

通期の見通し

今後の傾向としましては、IT環境の変化に伴う特需が終了し、その反動によるソリューション及び関連製品の売上減少が見込まれます。一方、保守契約者数が順調に増加しており、サービス部門の売上は増加傾向にあります。このような状況の中、当社は創業以来の「顧客第一主義」の理念のもと、顧客企業の業務改善とコストダウンを実現すべく、ニーズに合った製品開発と保守サービスの充実の他、今後需要が高まるクラウド運用の提案などを通じて、業績の向上を目指してまいります。

■2015年3月期業績予想

(単位: 百万円)

	金額	前期比
売上高	20,000	1.3%減
営業利益	8,800	3.4%減
経常利益	10,200	16.9%減
当期純利益	6,560	11.8%減

「日経コンピュータ 顧客満足度調査」の「ERPパッケージ部門」で、 **OBCが第1位を獲得!**

OBCは、「日経コンピュータ 2014年8月21日号 顧客満足度調査 2014-2015」の「ERPパッケージ部門」において、3年ぶりに第1位の座に返り咲くことができました。これもひとえに皆様のご指導ご鞭撻のおかげと心より感謝申し上げます。

今回の満足度調査では、9つの評価項目中、6項目で部門最高となった他、全項目にわたり平均より2.5ポイント以上高いスコアを獲得いたしました。これは当社製品の総合力が評価されたものと考えております。

日経コンピュータ 顧客満足度調査 「ERPパッケージ部門」の 主な評価項目

全9評価項目中6項目でトップの評価を受け、総合満足度第1位の座に輝きました。

日経コンピュータ 2014年8月21日号「顧客満足度調査 2014-2015」掲載の表を基にOBCが作成

【評価項目】	導入や初期設定の 容易さ	機能	システム構築の 容易さ	運用管理の 容易さ	導入価格	問い合わせへの 対応	総合満足度
OBC	69.7	64.1	59.6	66.2	53.3	63.6	63.6
全社平均	53.6	60.6	50.9	56.5	46.9	58.0	57.2

当社は創業以来「顧客第一主義」の理念を掲げておりますが、「顧客満足度」の充実が最重要課題であり、この点を評価され続けることで企業価値の向上へとつなげていく所存です。

当社では、この輝かしい評価に慢心することなく、これからも販売代理店様との強力なパートナーシップのもと、お客様の幅広いニーズを踏まえた利便性の高い製品の提供と、サポート体制の充実に努めてまいります。



日経コンピュータ 2014年8月21日号
顧客満足度調査 2014-2015
ERPパッケージ部門第1位

来たる制度改革と環境変化への的確に対応

「奉行フォーラム 2014」開催!



テーマは【今、始める「備え」と「業務改善」】

今回の奉行フォーラムでは、今後実施が予定される「消費税率10%改正」、「軽減税率」、「マイナンバー導入」などの制度改革や、今後さらなる加速が予想される「クラウド環境」を見据えた「備え」及び「業務改善」をテーマに、的確な対応策をご提案する内容になっています。

各分野の専門家による「ビジネスセミナー」での実践的な情報提供や展示コーナーでのソリューションのご紹介などで、お客様のさまざまな課題に「短期間」で「安心」できる解決策をご提案しています。

充実の「ビジネスセミナー」

消費税法改正やマイナンバーをテーマに、専門の講師によるセミナーを開催。実務への影響や準備について確認できます。

消費税率10%改正・軽減税率
財務会計・経理担当者に
おすすめ!

マイナンバー
人事・労務・総務担当者に
おすすめ!

「ソリューション」を一堂に展示

最新の奉行シリーズをはじめ、OBCの多彩なソリューションを現場で体感。業務別、業種別など、きめ細やかなご提案をしています。

業務別

業種・業態別

クラウド対応
奉行 for クラウド

全国11会場で順次開催!

各会場で多くのお客様にご好評をいただきました。これから開催の会場もございますので、お近くのお客様は、ぜひお越しください。

- 【名古屋】10月9日(木)
- 【大阪】10月15日(水)
- 【仙台】10月17日(金)
- 【東京】10月21日(火)
- 【福岡】10月28日(火)
- 【札幌】11月7日(金)
- 【広島】11月11日(火)
- 【金沢】11月13日(木)
- 【大宮】11月17日(月)

参加受付中の会場はこちら!

- http://www.obc.co.jp/f2014/place/
- 【静岡】12月2日(火)
ホテルアソシア静岡3F
- 【横浜】12月8日(月)
横浜ベイホテル東急B2F



財務諸表

第2四半期貸借対照表

(単位:千円)
※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	第35期末 平成26年3月31日現在	第36期 第2四半期末 平成26年9月30日現在
資 産 の 部		
流動資産	61,019,952	60,064,346
固定資産	36,860,019	38,739,007
有形固定資産	381,025	368,674
無形固定資産	537,746	557,326
投資その他の資産	35,941,247	37,813,006
資産合計	97,879,971	98,803,353
負 債 の 部		
流動負債	11,959,172	8,456,569
固定負債	2,544,603	3,418,573
負債合計	14,503,776	11,875,142

純 資 産 の 部		
株主資本	76,062,359	78,153,660
資本金	10,519,000	10,519,000
資本剰余金	18,949,268	18,949,268
利益剰余金	51,941,822	54,033,123
自己株式	△5,347,731	△5,347,731
評価・換算差額等	7,313,836	8,774,550
その他有価証券評価差額金	7,313,836	8,774,550
純資産合計	83,376,195	86,928,210
負債純資産合計	97,879,971	98,803,353

CHECK POINT

1 純資産
純資産合計は869億28百万円となり、前事業年度に比べ35億52百万円増加いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金が14億60百万円、利益剰余金が20億91百万円それぞれ増加したことによるものです。この結果、自己資本比率は88.0%となりました。

第2四半期損益計算書

(単位:千円)
※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	前第2四半期 累計期間 平成25年4月 1 日～ 平成25年9月30日	当第2四半期 累計期間 平成26年4月 1 日～ 平成26年9月30日
2 売上高	8,426,704	9,011,448
売上原価	1,383,174	1,352,587
売上総利益	7,043,529	7,658,861
販売費及び一般管理費	3,769,069	4,115,911
営業利益	3,274,460	3,542,949
営業外収益	1,093,242	919,140
営業外費用	1,636	30,720
3 経常利益	4,366,067	4,431,370
特別利益	1,637	68,438
特別損失	17,821	－
税引前四半期純利益	4,349,882	4,499,808
法人税等	1,641,405	1,603,282
法人税、住民税及び事業税	1,369,554	1,301,194
法人税等調整額	271,850	302,087
3 四半期純利益	2,708,477	2,896,526

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)
※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	前第2四半期 累計期間 平成25年4月 1 日～ 平成25年9月30日	当第2四半期 累計期間 平成26年4月 1 日～ 平成26年9月30日
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,887,469	3,254,011
5 投資活動によるキャッシュ・フロー	814,574	269,686
6 財務活動によるキャッシュ・フロー	△939,392	△939,593
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,760	－
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,770,412	2,584,104
現金及び現金同等物の期首残高	46,031,782	53,434,601
現金及び現金同等物の四半期末残高	48,802,194	56,018,706

CHECK POINT

2 売上高
消費税法改正による特需の反動で、プロダクト売上は減収となりましたが、サービス売上（保守売上等）が寄与し、前年同期比（以下同）6.9%の増加となりました。

3 経常利益・四半期純利益
経常利益（同1.5%増）及び四半期純利益（同6.9%増）の主な要因は、営業外収益の減収はありましたが、総じて売上高が寄与したことによるものです。

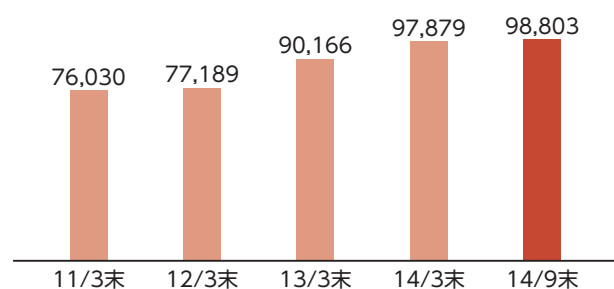
4 営業活動によるキャッシュ・フロー
主なプラス要因は、税引前四半期純利益の計上、売上債権の減少額等であり、主なマイナス要因は、法人税等の支払額、前受収益の減少額等によるものです。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー
主なプラス要因は、投資有価証券の売却による収入であり、主なマイナス要因は、無形固定資産の取得による支出等によるものです。

6 財務活動によるキャッシュ・フロー
要因は、配当金の支払額によるものです。

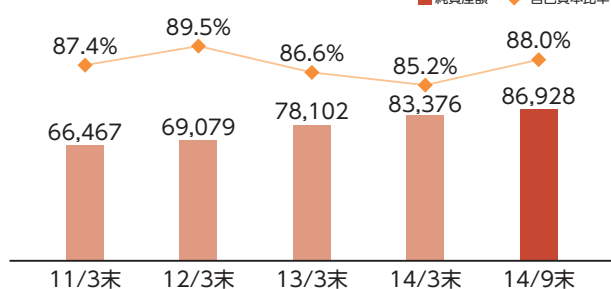
◇総資産額

(単位:百万円)



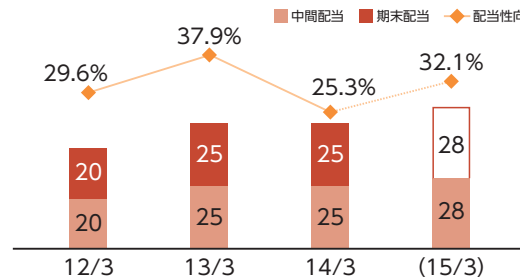
◇純資産額／自己資本比率

(単位:百万円)



◇中間配当／期末配当／配当性向

(単位:円)

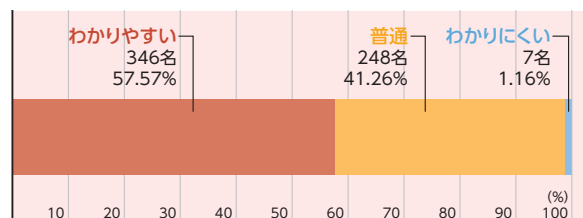


2013年10月1日付で1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しました。過去分につきましては遡及修正した金額を表示しております。

アンケート結果報告

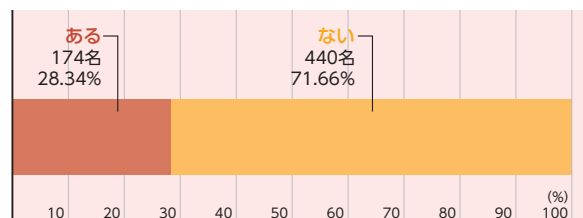
「第35期奉行通信」で株主様へアンケートを実施させていただきました。株主数5,058名のうち631名よりご回答を頂戴しました。株主様へ御礼を申し上げますとともに、その集計結果のご報告・寄せられたご質問について回答させていただきます。

Q 当社の奉行通信について、わかりやすさはいかがですか。



98%以上の株主様が「普通」・「わかりやすい」とご回答くださいました。今後もよりわかりやすい紙面を提供していきます。

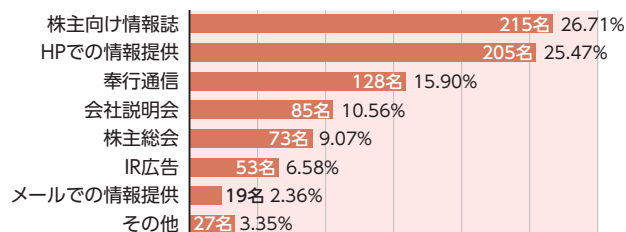
Q OBCのIRサイトを見たことがありますか。



環境がないというご意見をいただく一方で、見たことがあるという方が少しずつ増えてきています。タイムリーな情報提供を行っておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

(会社・IR情報 <http://www.obc.co.jp/corporate/>)

Q 当社のIR活動について特に充実を希望することは何ですか。



多くの株主様から「株主向け情報誌」・「HPでの情報提供」の充実を希望されるとのご意見をいただきました。「奉行通信」も情報提供のツールとして根強い人気がありますので、より充実した紙面作りに努めてまいります。

● その他ご意見のご紹介

- さらなる消費税増税が控えていることもあり、会計ソフトの需要増による御社の業績向上を期待しています。
- 今後も親しみやすいIRを期待いたします。
- 株主優待を楽しみに投資しましたが、将来性に魅力を感じ長期保有を検討しています。今後も堅実な業績拡大を期待しています。

企業情報

平成26年9月30日現在

株式の状況

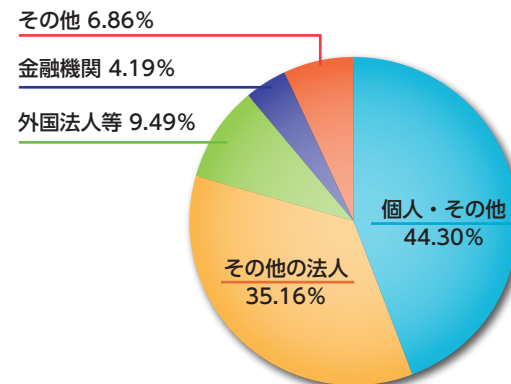
発行可能株式総数	161,408,000株
発行済株式の総数	40,352,000株
株主数	3,238名

大株主（上位7名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社オービック	13,589	36.16
和田成史	11,556	30.75
和田弘子	2,616	6.96
澤田和久	464	1.23
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	450	1.20
中山茂	441	1.09
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY	346	0.86

※持株比率は自己株式（2,769千株）を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



企業プロフィール

会社概況		
商号	株式会社オービックビジネスコンサルタント	
本社所在地	東京都新宿区西新宿六丁目8番1号	
設立	昭和55年12月12日	
資本金	10,519,000 千円	
従業員数	674 名	

役員		
取締役会長	野田順弘	
代表取締役社長	和田成史	
専務取締役	和田弘子	
常務取締役	中山茂	
取締役	大原泉	
取締役	木村博	
取締役	橘昇一	
常勤監査役	黒図成一	
監査役	高橋郁雄	
監査役	加納博史	

主要事業拠点	
本社／東京支店	〒163-6032 東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー32F
大阪支店	〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル23F
名古屋支店	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-16-7 NORE伏見ビル7F

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先*)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先*)	☎ 0120-782-031
(ホームページ)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
一単元の株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部

■ 株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について
株主様の口座がある証券会社へお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、上記の電話照会先をお願いいたします。

■ 「配当金計算書」について
配当金のお支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

株主様アンケートがwebからも可能に

株主様アンケートがwebからも簡単に行っていただけるようになりました。
お寄せいただいたご意見は、今後の会社運営の参考として大切に扱わせていただきます。ぜひご利用ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

e-株主リサーチ(オンライン)で、ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を当選させていただきます(ハガキでご回答いただいた方は対象とはなりません)



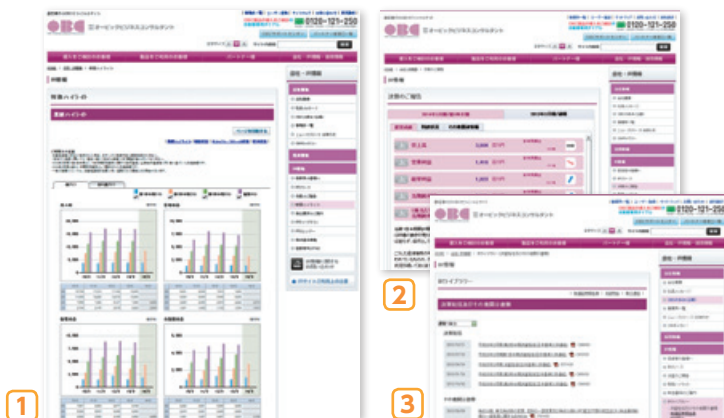
※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

IRページが充実！当社IRサイトのご案内



- 1 財務ハイライト** <http://www.obc.co.jp/corporate/ir/highlight/>
四半期ごとの決算情報をもとに、見やすさを工夫。タイムリーにご覧いただけます。
- 2 決算のご報告** <http://www.obc.co.jp/corporate/ir/release/report.html>
有価証券報告書・四半期報告書に掲載された内容をもとに、より充実した情報量・体裁となりました。
- 3 IRライブラリー** <http://www.obc.co.jp/corporate/ir/library/>
有価証券報告書、決算短信等、過去の開示書類をご覧いただけます。また、奉行通信やアナリスト向け説明会の内容も、このページから閲覧可能です。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4733

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjw.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



株式会社

オービックビジネスコンサルタント

<http://www.obc.co.jp/>